

## 会 議 録

### 1 会議名

令和6年度 第5回春日区地域協議会

### 2 議題（公開・非公開の別）

#### (1) 自主的な審議（公開）

- ・自主的な審議事項について

### 3 開催日時

令和7年1月15日（水）午後6時30分から午後7時40分まで

### 4 開催場所

上越文化会館 中会議室

### 5 傍聴人の数

なし

### 6 非公開の理由

なし

### 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委 員：飯田、池亀、市川、上野、折橋、崎田、瀧本、田中会長、田邊、原、  
本多、山谷、吉田(実)、吉田(義)、渡部（欠席4名）

- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、鈴木主事

### 8 発言の内容（要旨）

#### 【井守副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

#### 【田中会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・挨拶

#### 【井守副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

#### 【田中会長】

- ・会議録の確認：折橋委員に依頼

次第3 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

- ・資料No.1、資料No.2 に基づき説明

【田中会長】

ただ今の説明について、質問を求める。

(発言無し)

質問が無いようなので、春日区の地域性（強み・弱み）について、ワークシートに記入後、各委員から発表してもらう。5人発表ごとに意見交換をする。

【崎田委員】

春日区の問題点を抽出できるほど、地域性についてよく知らない。

土橋の新興住宅地の小学校区は高志小学校と東本町小学校に分かれるが、学校が違くと子供たちは一緒に遊ばない。親は引っ越してきた後で学区が分かるようだ。市に問い合わせているがはっきりしない。若い家族に心配をかけている。

【瀧本委員】

自分の家の周りを見ると、数年後に空き家になる家が増える状況になっていくことが心配だ。

【田邊委員】

岩木は他の地域から来た人が非常に多様だ。その中でコミュニティが生まれ、リーダーが育つことを願う。次の世代を育てていけば、非常に強みになる。

弱みは、高齢化が進んでいることで、次のリーダーになる人がいれば助かる。

【原委員】

好きなところは上杉謙信公で、今年は謙信公祭が100回目でも歴史があり、地域の方々にも評価されている。また、神輿などで知らない人たちが一緒に行事に参加することは、新たなコミュニティのきっかけになると考えられる。こういう取組を継続させながら、コミュニティの輪を広げていきたい。

心配事は、町内会の三役の成り手がいない。業務が過重だと思われて尻込みされて出てこない。将来、解決しないといけない問題だ。

【本多委員】

強みは、自分の町内には、活発に活動している人が結構いる。任せっきりになる部分もあるが、その人がリーダーのうちは、町内会はスムーズに動いている。

しかし、高齢化が進んでいる。小学生が少なく、子供会は活動が活発にならず心配している。役員はあみだくじで決めている。自ら手を挙げるまではいかなくても、話し合いで決める形になればと考える。

#### 【田中会長】

ここまでの意見について、質問を求める。

瀧本委員に質問する。「数年後には周りの人がいなくなってしまうことが心配」というのは、今現在は順調だが、将来的に弱みになると捉えたがいかがか。

#### 【瀧本委員】

弱みと捉えている。自分の地域だけかもしれないが。

#### 【山谷委員】

私は田舎から嫁いで来たので、春日地区は交通の便がいいと思う。バスや電車での移動がしやすく、車が無くても病院や市役所などに行きやすい。飲食店もほどほどに多く便利だ。

心配なことは、便利さゆえに割とやんちゃな子もいる。バイクで暴走する子が春になると現れる。私の家は飲み屋に近いので、揉めたり喧嘩したりする声が聞こえて、治安が心配。このほか、会議等の役員が同じ顔ぶれなのが少し気になる。

#### 【吉田(実)委員】

強み

- ・春日山の謙信公祭。地元が企画運営等をしているので、誇れる活動。
- ・春日山町3丁目から始まった防犯パトロール。犯罪などが非常に減少したとのことで、これは水平展開していく活動。
- ・いきいき春日野のふれあいコンサート。小学生、中学生、大学生との交流の場になる活動。
- ・青壮年会。町内活動の中で、身体を使う活動の中心になっている。他に水平展開できればと思う。

弱み

- ・高齢化。新光町にも古い団地があり、独居老人宅、空き家が増加している。これは緊急の課題。

- ・子供会が任意加入になり、活動が非常に停滞している。

#### 【吉田(義)委員】

弱みは、担い手不足、高齢化、団体の認知度不足と多々あるが、その中でもコミュニティの担い手不足については、活動している人たちを称賛する機会が不足していることが、成り手がいない理由だと考える。「あの人はよくやっている」と話題になれば、その人に引き続いてやりたいという話が出てくるのではないかと。

強みは、町内で各行事に多くの人に参加できるように努力している。役職に就いている方は活発に活動されていて、活動の様子を写真に撮り、分かりやすく紹介することで町内の方々に伝わるよう努力している。

コミュニティに属して活動している人たちを称賛し、コミュニケーションをとり、横のつながり、縦のつながりを連携させないと、町内はうまくいかない。

#### 【渡部委員】

好きなところは、いろいろな人材が非常に多く、趣味のサークルなども多いところ。

心配事は、区を代表するような人材がいない。いても前面に出たがらない。理由は報酬が少ないなど、いろいろある。

#### 【田中会長】

強みは、春日区は他の地区と違い、市役所を中心に文化会館、体育館、休日・夜間診療所、ファミリーヘルプ保育園、春日山駅などがあり、市の中心地にいるからこそその恩恵が受けられること。

弱みは、最期を過ごしたいと思える老人ホームのような施設が春日区には無く、高齢者がこの土地にいたいという願いが叶えられないこと。

ここまでの意見について、質問を求める。

(発言無し)

質問が無いようなので、次に移る。

#### 【飯田委員】

好きなところは、いろいろな方がいること。それぞれの経歴、職種などから様々な意見が挙がり、それをまとめれば大きなものになる。様々な経歴や出身の方が混ざって協議することはとてもいい。目的を明確にした団体を作ると、集まってくれる人がいる。

心配事は、春日区は広いので、皆さんを知る機会が少なすぎる。高齢化も進んでいるが、周りにも元気な70代、80代の方はたくさんいる。元気な高齢者を増やすことが課題。

## 【池上委員】

### 好きなところ

- ・春日地区は歴史的な史跡が多い。
- ・自然環境に非常に優れている。
- ・若い世帯が増えて、子供たちが他の地区に比べて多い。

### 心配事

- ・昔からの住民である農家の方たちと、新たに移住された方たちとの意識の差が埋まらない。それによって消防団の成り手がいない。若い人達に納得してもらえない。
- ・高齢化が進み、後継者不在のため空き家が増えている。今後どういうふうを活用するのか、整理するのか、これからの一番大きな問題になる。

## 【市川委員】

### 好きなところ

- ・地域の宝、春日山城があることで、市外からたくさんの人が訪れる。
- ・春日中学校、春日小学校、高志小学校と、28区の中で児童、生徒数が非常に多い学校が3つあり、非常に活発に活動ができている。

### 心配事

- ・外で遊ぶ子供の声がしない。
- ・高田と直江津が合併し上越市ができたときに、春日区を中心にすることで動いていたが、市街地らしいものがない。市外から来た人に、上越市の中心地を聞かれても答えられない。もう少しこの周辺がにぎやかになるといい。
- ・年代によって個人で動く傾向が強く、行事や活動への参加者が固定化している。何かいい解決方法がないかと考えている。

## 【上野委員】

### 強み

- ・利便性の高いエリアであることが魅力。
- ・いろいろなところから人が集まり人材が豊富。

### 弱み

- ・人が多すぎて、自分が出なくても誰かが何かをしてくれる。人と関わりたくない人にとっていいエリア。
- ・防犯、防災に関しては市役所が近くにあるので大丈夫だと過信してしまい、他人任

せになっていることが気になる。

【折橋委員】

強み

- ・春日山を中心とした歴史的な遺産が豊富。
- ・頸城平野の西の際で、山もあり自然が豊か。他の地域から移住して、キャンプ場を作ろうとしている人もいる。

弱み

- ・閉鎖的なところがある。

【田中会長】

今までの発表について、質問を求める。

私から折橋委員に質問する。春日区内にキャンプ場があるのか。

【折橋委員】

キャンプ場を作ろうという計画があるようだ。岩木ではカフェやイベント会場を設置している人がいる。

【渡邊係長】

その場所で、今年度、地域独自の予算事業を活用してイベントが実施された。

【田中会長】

他に質問はないか。

(発言無し)

全体を通して、質問はないか。

【渡邊係長】

強みと思うことが、逆に弱みでもあるという発言が多かった。

人口が多く、人材も多いが、人間関係が希薄という意見が目立つようだ。

【原委員】

危険な空き家の対応は行政が主体だが、発見などは地域の人たちも協力できる。非常に風が強いときはトタンが近隣の家飞到ぶなど、非常に危険なこともあり、それを未然に防止するためには、行政の働きかけが必要だ。仲町では何か対策ができているという情報も耳にする。いずれは公的な権力で取り壊すことになることを望む。

また、管理されていない農業用水がある。農地が管理できなくなり売ると、デベロッパーが入り宅地になる。ところが、田んぼには農業用水があり、農作業をしている人た

ちが夏場は草刈りなどをして管理するが、田んぼをやめてしまうと草刈りもやめてしまい、近隣住民が町内会に草刈りを依頼してくる。管理組合も無くなり人がいない。農業用水はあるが管理する人がいないので、雑草が増えて環境が悪くなっている。誰が解決するのか。このような事態が春日地区で散見される。行政が入らないと解決できないと思うのでお願いしたい。

【田中会長】

崎田委員の「学校区が違う子供たちは一緒に遊ばない」ということに対して、山谷委員はどう思うか。

【山谷委員】

子供会同士の交流もあまり無いので、学校区が変わるとなおさら無いと思う。たまに交流する機会があれば変わるかもしれないが、今はそういう感じではない。

【上野委員】

木田や新光町は「どんど焼き」をやるが、やらない町内もある。子供たちを中心に考えると、学校区ではなく他の町内会の行事に参加できるようにしてほしい。子供が来ると必然的に親や祖父母も来るので、参加者が増えて盛り上がる。木田の子供祭りなどは、他の町内の子供たちも参加できる。子供たちは、学校の友達と一緒に参加したいと思う。それによってコミュニティも広がる。

各町内の行事は詳しくは分からないが、小学校区もしくは中学校区まで広げて、コミュニケーションをとりやすくし、子供たちが一緒に参加できる行事を考えてほしい。町内会の費用負担ではなく、春日区の中での費用負担を検討して欲しい。

今は、部活動からクラブ活動になり、学校区が別でも交流できるようになったので、春日区以外でもコミュニティが広がるとありがたい。

【本多委員】

藤巻では「どんど焼き」がない。お正月の飾りなどを納めに、他の町内の「どんど焼き」に参加したいが、一人で行くこともできない。他にもそういう人がいると思うので広報していただきたい。

子供会では子供が少ないので、今年から木田新田と合同でラジオ体操を行っていた。子供たちが少なくなればなるほど、つながりやコミュニティが大事になる。

【池上委員】

空き家が非常に増えているが、私は能生の親戚の空き家を処分するために、糸魚川市

役所に相談に行った。全部SNSで手配し、希望額も確認し、中にある家具の片付け代金も全額ではないが市が負担してくれた。上越市の空き家対策について知りたい。

【小林所長】

空き家は全国的な問題。所有権の壁があり、行政もなかなか手が出せない。市によっては、行政代執行や独自の方法でサポートしているところもある。上越市でも、担当課が空き家バンクで空き家の紹介のほか、アドバイス等を行っている。

【田中会長】

町内会での「どんど焼き」は、子供たち同士のコミュニケーションがとれて、いいのではないか。

【崎田委員】

子供会の行事になると、親は近隣の人同士で、学校区に関係なく、親の絡みがあるから子供たちも参加する。問題は学校の授業が終わり、帰ってきて遊ぶときに、東本町小学校と高志小学校の子供たちがそれぞれの場所に分かれてしまう。行事をやるときは、それなりに一緒に行動はしている。

【吉田(義)委員】

「どんど焼き」は町内会が主体となったときに、段取りするのは青年会なのか、PTAを含めた役員がやるのか。子供を引き込むための糸口がどこにあるのか、参考までに教えてほしい。

【崎田委員】

土橋では、体育レクの幹事が中心となり行っている。子供会ではない。公園で開催しているが、火災を心配する近隣住民から、縮小して行うように言われている。行政の許可はもらっている。

【吉田(義)委員】

木田では、人家があるところではできないので、畑を借りて行っている。青壮年会、町内会、子供会が、前から準備し当日を迎える。開催後は、消防団が後始末をする。青壮年会が春祭りの際に寄付を集め、それを夏祭りなどにも充てている。

昔は80世帯だったが、今は3,000世帯になり、伝統を引き継ぐにはどうするか。春祭りに子供たちと一緒に親が出てきたときに、町内の行事や消防団に勧誘する。人が集まるような形を作らないといけない。ベースになるのは子供たちなので、子供が集まる手法を考える。

【市川委員】

新光町の「塞の神」は青壮年会が主体で、各組の社会係、町内の理事、消防団の約 40 人で櫓を組み立てる。

子供たちの交流については、親が役員になるのを嫌がるため、地域に子供は大勢いるが、子供会に入る子供は少ない。子供会が存続できるか、不安に思っている。

また、子供会主催で行事をすると、加入していない子供は事業を見ているだけなので、「参加していいよ」と声かけをしようという話は出ているが、なかなか実現できていない。各町内の子供会の実態を教えてほしい。少し前は 70 人ぐらいいたが今は 50 人ぐらいで、だんだん少子化になってきたのは仕方ないが、自分が役員をやるのが嫌だから入らないというのは、親の無責任な考えで、そういう親と話しても一方通行で全然妥協点が見出せない。何でそこまで強制するのかという話になる。P T Aについても全国的な問題になっているが、この件も非常に大きな問題になってくる。

【渡邊係長】

子供会の実態や空き家の話などの質問事項については、会議を重ねていく中でまとめ、該当する団体や市から説明する機会を作る予定である。この場ですぐに回答が出ないものがあることをご了承いただきたい。

【田中会長】

他に質問はないか。

(発言無し)

質問が無いようなので、以上で次第 3 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第 4 その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【井守副所長】

- ・ 次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・ 次回の地域協議会：2 月 12 日（水）午後 6 時 30 分から  
上越市市民プラザ 第 1 会議室（予定）

【田中会長】

以上で次第 4 その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第 4 その他の「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

(無しの声)

- ・会議の閉会を宣言

## 9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。